

釧路町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

釧路町は、北海道の南東部・釧路管内の南部に位置し、令和6年11月30日現在の人口は18,379人、総面積254.15km²のうち約72.2%を占める山林が広がっており、町内の広範囲に渡り山間集落や漁村集落が点在している。

主要幹線道路は釧路市と根室市を結ぶ国道44号、中標津町へ向かう国道272号、標茶町へ向かう国道391号などがあり、釧路市や近隣町村へ通じる交通手段として幹線交通である路線バス及び鉄道を軸に、町内の広範囲にわたり公共交通網が広がっており、町内及び釧路市内の医療機関や大規模商業施設等への移動手段として、町民の通勤や通学、通院、買い物等の足として重要な役割を果たしている。

一方で、山間部等の一部地域では公共交通空白地域となっており、以前から高校への通学は保護者等の送迎なしには通学することができず、また高齢者等における通院、買い物等の生活交通手段の確保が課題となっていた。

地域公共交通確保維持改善事業の実施により、幹線系統へ接続するデマンド型交通を運行し、高校生の通学、買い物、通院等も含めた住民の生活交通手段の構築を順次進めているところである。

地域公共交通の現況

【鉄道】

- ・ JR根室本線（花咲線）～ 別保駅
- ・ JR釧網本線 ～ 遠矢駅・釧路湿原駅・細岡駅

【民営路線バス】

- ・ くしろバス(株) ～ 町内11路線
- ・ 阿寒バス(株) ～ 町内2路線

【民営タクシー】～ 町内3社

生活交通確保維持改善計画の目標

釧路町デマンドバスの利用者数 1, 136人/年 以上
収支率 1.4%/年 以上
公的資金 10,833千円 以下

(内訳)

尾幌駅前線	利用者数 1,016人/年	収支率 2.4%	公的資金 6,199千円
昆布森イオン線	利用者数 76人/年	収支率 0.4%	公的資金 3,420千円
共和別保駅前線	利用者数 44人/年	収支率 0.7%	公的資金 1,214千円

協議会開催状況

◆令和6年6月25日(通常開催)

・地域内フィーダー系統確保維持計画について協議、承認。

◆令和7年1月16日(通常開催)

・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について協議、承認。

令和6年度事業概要

【尾幌駅前線】・運行区間: 昆布森東各集落⇄厚岸町尾幌駅 ・運行便数: 月～金曜日/上り(朝)2便・下り(夕)1便

・実績運行回数: 600回 ・輸送人員: 1,611人(1便当たり平均乗車人数: 2.6人) ・運賃50円～600円

【昆布森イオン線】・運行区間: 昆布森全域⇄イオン釧路店 ・運行便数: 火・金曜日/上り(朝)1便・下り(昼・夕)2便

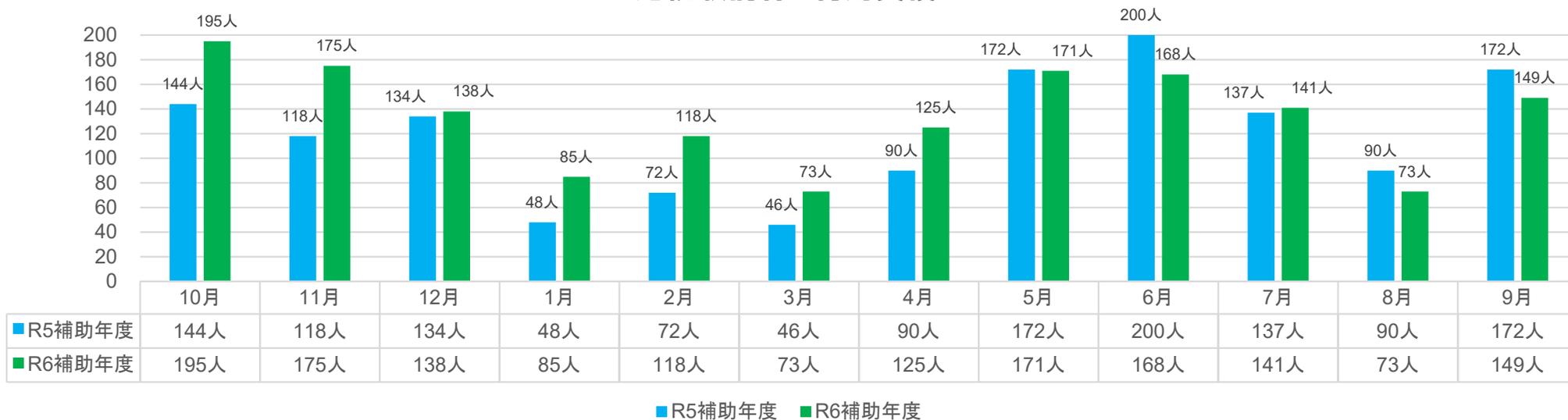
・実績運行回数: 124回 ・輸送人員: 169人(1便当たり平均乗車人数: 1.3人) ・運賃: 100円～900円

【共和別保駅前線】・運行区間: 共和地区⇄別保駅前 ・運行便数: 火・金曜日/上り(朝)1便・下り(昼・夕)2便

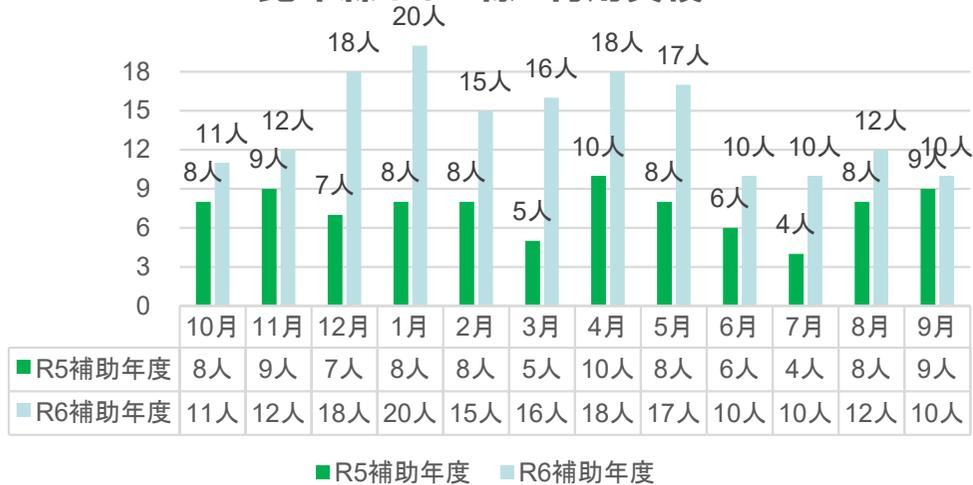
・実績運行回数: 78回 ・輸送人員: 109人(1便当たり平均乗車数: 1.3人) ・運賃: 50円～100円

3) 利用実績

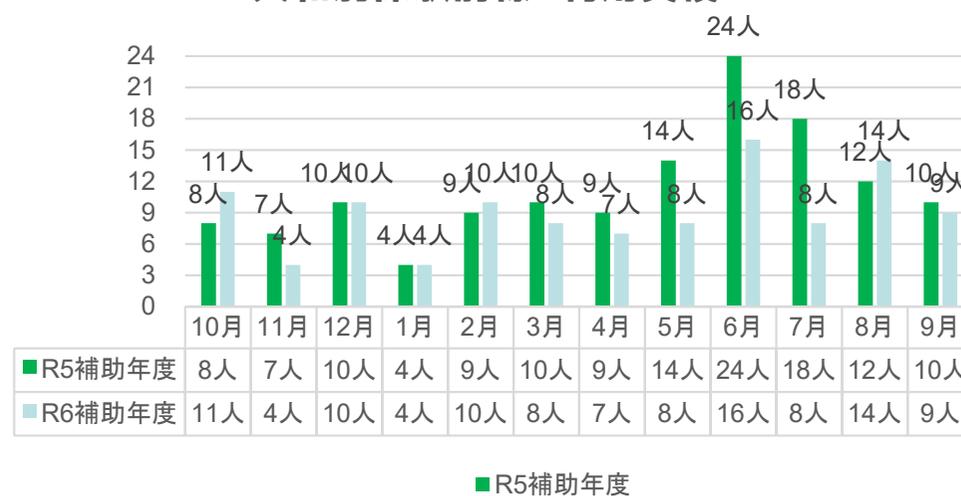
尾幌駅前線 利用実績



昆布森イオン線 利用実績

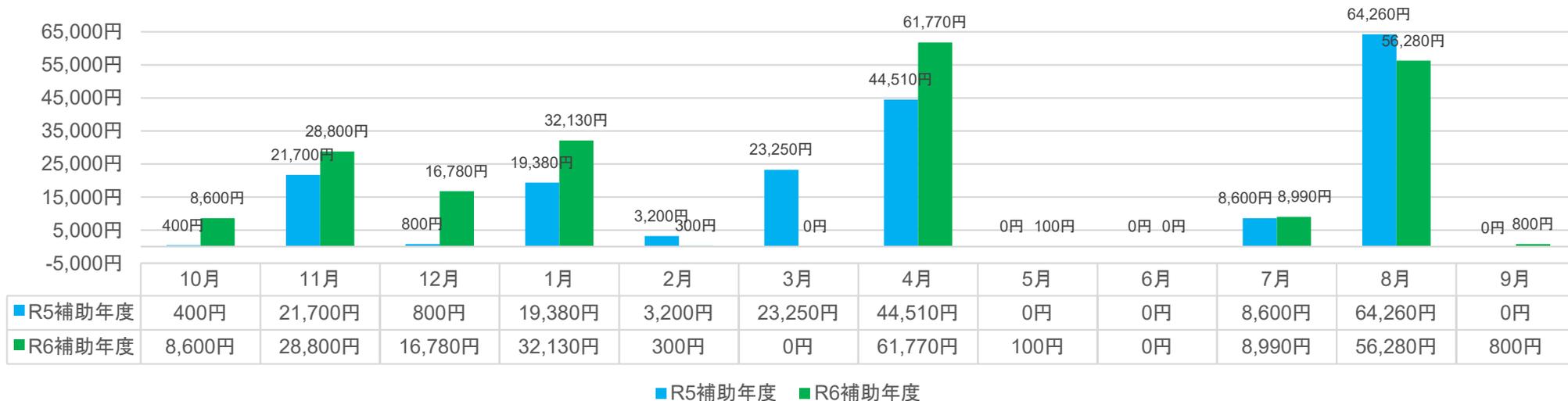


共和別保駅前線 利用実績

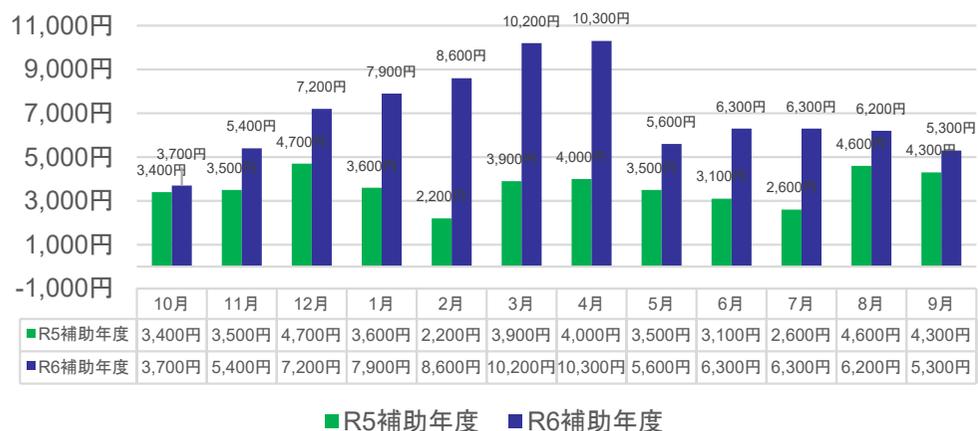


4) 収入実績

尾幌駅前線 収入実績



昆布森イオン線 収入実績



共和別保駅前線 収入実績



5) 事業実施の適切性

【尾幌駅前線】

運行ダイヤを高校生の登下校の時間帯と合わせることで、昆布森東地区の高校生を自宅から通学可能とした。また高校生以外にも、高齢者等の買い物・通院等の利用があり、生活交通路線としての役割も担うことができた。

【昆布森イオン線／共和別保駅前線】

運行地域における高齢者等の買い物・通院等を可能とし、生活交通路線としての役割を担うことができた。

6) 目標・効果達成状況

【尾幌駅前線】

目標を上回る1,611名/年の利用があり、高校生の通学の足を確保することができた。また、物価高騰による諸経費の増加により、公的資金の投入額については、目標上限を超えてしまったが、収支率については目標を達成し、効率的な運行を行うことができた。

【昆布森イオン線】

目標を上回る169名/年の利用があり、高齢者の通院・買い物の足を確保することができた。また、物価高騰による諸経費の増加により、公的資金の投入額については、目標上限を超えてしまったが、収支率については目標を達成し、効率的な運行を行うことができた。

【共和別保駅前線】

目標を上回る109名/年の利用があり、高齢者の通院・買い物の足を確保することができた。また、物価高騰による諸経費の増加により、公的資金の投入額については、目標上限を超えてしまったが、収支率については目標を達成し、効率的な運行を行うことができた。

7) 事業の今後の改善点

・運行ダイヤの設定にあたっては、引き続き利用者や地域の意見を取り入れながら、接続する路線バス等の運行ダイヤとの整合性を図り、運行ダイヤ改正を行う。

・昆布森イオン線・共和別保駅前線については、利用者が特定少数となっていることから、引き続き対象地域への事業周知を図り、利用を促進することが必要である。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和7年度分と併せて評価)